

大阪成蹊大学 令和六年度入学式

学長式辞

大阪成蹊大学の令和六年度新入生の、
一年次生 995 名、三年次編入生
19名、大学院教育学研究科4名
の総勢 1018名のみなさん、
ご入学おめでとうございます。

明るく希望にあふれた皆さんをお迎え
できたことを大変うれしく思います。
また、これまで新入生を励まし、支え
ていただきました、ご家族・関係者の皆
様に心からのお祝いを申し上げます。

さて、明日から一週間のオリエンテーシ
ョンを経て、来週にはいよいよ授業が始
まります。

皆さんがこれから本学で学び始めるこの機会に、「なぜ学ぶのか」、そして「どのように学ぶのか」について考えてみたいと思います。

■紀元前のローマ時代の政治家で哲学者のキケロは、「生きるとは考えるということである」ほかたくさんの名言を残しています。

キケロは「自分が生まれる前に起こった事に対して何も知らないのは、子供のままで成長していないことと同じ」とも言ったそうです。

これは歴史の知識についての話ですが、それだけでなく、知らなかった様々なことを学ぶことによって、子供から大人になることができる、というようにも読めます。

よく考え、よい知恵を生み出す人は、同時に「よく学ぶ人」ともいえます。

多くを学び、多くを考え、多くを経験することによって、「人間力」をもったすばらしい個性が築かれていきます。これが「なぜ学ぶのか」の答です。

■次に大学で「どのように学ぶか」についてお話します。

中国の孔子は『論語』の中で、「学びて時にこれを習う、亦（ま）た説（よろこ）ばしからずや。朋有り遠方より来たる、亦た樂しからずや。」と書いています。

ここでいう「とも」とは遊び友達のことではなく、一緒に学んだ「なかま」の事です。

「学びを深め、知識が豊かになれば、道を同じくする友人が遠い所からでもやって来て、一緒に学問について話すようになる。」という意味です。

大阪成蹊大学においては、一人で学ぶだけでなく、仲間や教員とともに学ぶことができます。その大切さを感じ取ってください。

■皆さんは、入学して学部の授業科目で専門的な知識と出会います。演習科目・実習科目を通じて、知識を利活用することを経験します。

面白いのは、利活用を進めることで、逆に、知識が広がったり、深まることがあることです。

大阪成蹊大学では、「LCD教育プログラム」を実施し、初年次教育科目、キャリア科目などを開講しています。これらはきつと皆さんの知識の利活用力を高めてくれるでしょう。

以上が大学で「どのように学ぶ」のかについての私からのヒントです。

■さて、ハーバードのシヨーン・エイカーは著書『幸福優位 7つの法則』の中で、最新の心理学と脳科学の結果を引用しています。

それによりますと、実は、「人は成功して初めて幸せになる」のではなくて、「人は、幸せで、気分がポジティブであるとき、脳はもっとも良く働き、人は成功するようになる」というのです。

「笑う門（かど）には福来（きた）る」とい
いますが、幸せな気分の方の方が、積極
性が高まり、ストレスに強くなり、結果
として、うまくいくことが多くなるとい
うことでしょうか。

大学を、より良い未来につながる「学び
の場」とするためには、みんなの気分が
ポジティブになるよう、身近なところか
ら変えていきませんか？

例えば、「朝の挨拶」から大学の1日を
始めてみてはいかがでしょうか。

■大阪成蹊学園は、昨年、創立九十周
年、大阪成蹊大学は二十周年を迎え
ました。

皆さんの学びとチャレンジによって本学の
新たな伝統が築かれていきます。

入学された皆さんが、多くの事にチャレ
ンジし、成長し、意義ある大学生活を
送ることを、心から願っています。

本日は誠におめでとうございます。

二〇二四年四月一日

大阪成蹊大学 学長 中村 佳正